

4. ミラノ市場

<基本データ>

・ミラノ市場

所在地：Via C, Lombroso 54-20137

市場対象人口：約1,000万人

取扱品目：水産（2万トン）、青果（100万トン）、食肉（1万トン）、
花き、家禽、ウサギ肉など

開設年：1980年

管理者：ミラノ食糧配給卸売市場開設経営組合株式会社

敷地面積：89ha

市場内業者数：青果物卸売業者160社、生産者162人、運搬業者110社、
輸出業者90社など

特色：イタリア最大の市場であり、IT化を取り入れている。



<ミラノ市場>

調査目的

現在計画中の再整備計画におけるコールドチェーンへの取組と、市場における人と車両の管理状況について、また、卸売市場を取り巻く中小小売店や消費者との関係性について調査を行った。

調査結果

イタリア No. 1 の巨大市場であるミラノ市場は1960年代の古い構造のままである。野菜・果物の取扱量（年間100万トン）のうち、30万トン以上が市場内に存在する輸出業者により国外へ輸出されている。

2015年のEXPO開催に向けて建て替えを予定しているこの市場は、エネルギー消費量が新市場において増加すると予測している。

そのため、コールドチェーン衛生管理については再整備計画において、本市場の下を流れている12℃の水を貴重な資源として空調管理に活用し、コスト



<新鮮な野菜類が取引されている>



<野菜の産地、取引状況の説明を受ける>

ダウンに結び付けていく計画がされている。次に、市場における人と車両の管理についてであるが、特に車両については午前3時から9時まで高速道路と直結させて輸送しやすい体制をとっていくことが計画されている。高速道路と直結し、一日300台から500台ものトラックが輸送しやすい仕組みを作ることを重視した市場構造としている。また、一日7,000人ももの来場にも対応できるよう屋上にパ

ーキングを設置することが予定されている。イタリアでは大型店舗開店に対し、

そのプロセスが複雑で、まだまだ規制も多いことから、小売り市場では比較的寡占化が進んでいない。よって、中小小売店の需要や期待にミラノ市場が応えているとも言える。個人消費者に対しては、毎週土曜日の午前中、市場を開放する施策をとっており、そのことが本市場をミラノ市民に身近な存在にしている。

ミラノ市場では、学生に対して農産物の取引、品質管理など理解を深める研修が行われており、視察時にちょうどその授業が行われていた。学生たちは真剣に説明に耳を傾け、積極的に質問や農産物の観察を行っていた。市場と学校との連携事業は東京でも積極的に進めるべきと考えた。



<地元の学生に対して研修が行われていた>

ミラノ市場は、世界各国の市場と提携をしており、日本では大阪黒門市場と姉妹市場契約を締結している。両市場が相互の信頼、理解、友好の精神を基調として、事業の発展に資することを確約している。



<世界各都市との姉妹都市提携>

ミラノ市場は、市民生活に欠くことのできない食材の取り扱いをしており、商品の安全管理の観点から、市場内への入退場は厳重に管理されている。入場の際には、管理棟での身元確認、入場目的などの確認が行われていた。同様に、商品の搬入出も同様に厳しく管理されていた。

一方、毎週土曜日には市民にも市場は開放されており、新鮮な食材が小売りされる。市民や学生との交流事業も積極的に行われている。



<市場の入退場を厳しくチェック>



<ミラノ市場役員と>